

未来につながる まちづくり の推進



昨年は、希望郷いわて国体・いわて大会が開催され、県選手団は、天皇杯・皇后杯ともに第2位という素晴らしい成績を残しました。当町で行われた自転車競技では、県選手団は総合成績6位と健闘しました。期間中は、約1万9000人の方々にご来場いただき、大会を成功裏に終えることができました。ご協力をいただいた皆さまに、改めて御礼申し上げます。「町民一人ひとりの健康保持」「地域住民の協力」「人々の躍動への大きな感動」などの成果を、国体を通じて確認することができました。これらの成果を今後の町政運営に生かしてまいります。

平成29年度の各施策につきまして、第二次紫波町総合計画に定める「健康・安心」をはじめとする5つの分野別政策に基づき、政策間連携、地域間連携に留意しつつ、持てる資源を生かし、新しい価値を創造することで、活力ある持続可能なまちづくりを進めてまいります。

このことから、平成29年度の当初予算案は、策定から2年目となる第二次紫波町総合計画後期基本計画を着実に推進する予算として編成したところであります。

町の財政見通しにつきましては、自主財源である町民税の大幅な伸びは見込めない一方で、高齢化に伴う扶助費をはじめ、社会保障費は今後も増加することが見込まれます。

こうした中、今後におきましても事業の選択と効率化を進めるとともに、常に財政状況を把握しつつ歳入確保に努め、財政の健全化を図ってまいります。

政に取り組んでまいります。

私は、これまで町をいかに発展させ、そして町民の生活をいかに充実させるかを考えてまいりました。これまでの施策を継続するだけではなく、将来を展望した理想や夢、希望を込め、未来に活躍する皆さまにつながるまちづくりが重要であります。子どもたちが大きく羽ばたき、高齢者が輝き、町民の力、地域の力が発揮される、町の力強い継続的發展を目指してまいります。

平成29年3月2日
紫波町長 熊谷 泉

紫波町第二次総合計画に基づき、 次の5本の柱に沿って各施策を進めてまいります。

1 町民が健康で安心して暮らせるまちをつくります



健康・医療

- 乳幼児健診・歯科健診の受診率、予防接種の接種率の向上推進
- 「健康で長寿の町」を目指し、中高年期の健康増進のための事業を推進
- 40歳以上を対象とした国保特定健診の無料化を実現
- 認知症の理解と啓発を目的に、各地区公民館で「認知症予防教室」を開催。介護予防と認知症予防を一体的・総合的に推進
- 総合事業を開始するにあたり、事業者との連携を強化

2 産業振興による地域の活性化と定住促進を目指します

農業

- 認定農業者、新規就農者など担い手の確保・育成に向けた取り組み、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化、農地の大区画化などの生産基盤整備を推進
- 食育と併せて地産地消を推進し、地場産農畜産物の消費拡大を促進

森林

- 松くい虫の被害対策として、被害松林の広葉樹林化など松林の健全化を推進
- 間伐材などの搬出量を拡大し、チップ原料として有効活用

観光

- 関係団体と連携して魅力ある観光資源を発掘し、町内外へ発信
- 第三セクター「ラ・フランス温泉館」のサービス向上と経営の安定化に向けた支援

雇用

- 紫波インターチェンジ周辺の土地について、関係機関と連携しながら土地利用調整を進め、企業誘致を推進。南日詰および犬淵工業団地については、未利用地を活用した企業誘致

資源循環

- 家畜排せつ物の堆肥化利用と循環型農業の推進
- ごみの焼却処理を広域で行うための協議を継続
- し尿処理施設に代わる「汚泥再生処理施設」の建設(平成30年度施設稼働予定)
- 環境負荷の低減のため、森林資源の活用、廃棄物の排出抑制と資源化などの取り組みを推進



3 快適で安全なまちをつくります

道路・治水

- 通学路の歩道整備や町道の改良舗装を推進
- 道路・橋梁などの老朽化対策として、定期点検や修繕を実施
- JR東北本線の十文字跨線人道橋の撤去事業
- 平沢川、赤沼川の改修工事を継続
- 土砂災害警戒区域などの指定を推進

都市整備

- 北日詰朝日田線と紫波インター線交差点の西側を整備
- 古館駅周辺整備に向けて、基本計画を策定し、具体的な整備手法を検討
- 老朽木造住宅の耐震対策の普及啓発と耐震診断および改修の支援を継続
- 「空き家等対策計画」の策定と有効活用に向けた検討

下水道・水道

- 南日詰・北日詰地区の公共下水道管路整備工事、農業集落排水処理施設の設備更新工事、町管理型浄化槽の設置を実施
- 公共下水道の既存施設を有効活用し、効率的な維持管理を図るためのストックマネジメント計画の策定
- 日詰6区・7区の浸水被害軽減に向けた日詰川排水ポンプ場の基本設計（現地調査、概略設計）を実施
- 各簡易水道等事業の、岩手中部水道企業団への移管協議推進



4 まちを誇りに思える子どもや心身ともに健康な人を育てます

子育て・子育て

- 子育て医療費助成の外来対象について、中学3年生まで拡大（8月予定）
- 妊娠・出産期から幼児期・学齢期までの支援を連携し、安心して子育てができる環境、子どもたちが生きる力を育める環境を整備
- 4月から「こどもセンター」を設置し、相談機能の充実により子どもや保護者を支援
- 「赤石こどもの家」の在り方について方針を策定
- 幼児教育・保育共通プログラムの策定に向けた作業の実施

学校教育

- いじめの未然防止・早期発見のため、学校・保護者・地域・関係機関などとの連携を推進
- 町学校教育審議会の答申をもとに、今後の学校教育の在り方を検討
- 学校給食における地産地消の促進

生涯学習

- 勤労青少年ホームの事業を中央公民館の事業に再編し、発展的な取り組みを実施



5 対話と協働を進め、安全で豊かさを実感できるまちをつくります



防犯・防災対策

- 企画総務部内に「消防防災課」を設置
- 町の実情に対応するよう、町地域防災計画を改正
- 紫波消防署の庁舎移転に向けた建設準備（平成31年度完成予定）

交通

- コミュニティバス「すこやか号」の運行路線を見直すなど、総合的な交通体系を構築

地方情報化

- 光回線未普及地域の代替方策を検討
- 携帯電話不感地帯の解消対策として山屋・峠地区に携帯電話基地局を整備
- 証明書のコンビニ交付を開始（12月予定）